

国語表現 群読「コンテスト」

芸術の秋らしく群読作品をみんなで作り上げ、発表する。

【目的】理解と表現の一体化した群読を表現できるようになる。

【目標】聞いている人を感動させる群読を演じる。

【授業の流れ】

教科書の中の文章から1つ選ぶ（選べるのは後述）

シナリオを作成する。

群読練習（「あめ」も含む）・中間発表

コンテスト

【詳細】

次の中から1つ選ぶこと

- 17 頁『ことわざ悪魔の辞典』別役実
- 41 頁「朝のリレー」谷川俊太郎
- 69 頁「人間に与える詩」山村暮鳥
- 83 頁「練習問題」阪田寛夫
- 90 頁「枕草子」一四四段
- 91 頁「今昔物語集」巻第二十七

【詳細】

各班に配布された用紙に群読シナリオを記す。書き直す必要もあるので、鉛筆で書いてかまわないと。ただし、コピーして配布するので、濃く書くこと。

・技法はその世界を表現するためなら自由に使ってかまわないと。必ず次のことは守ること。

言葉の繰り返しはOKだが、省略はNG。

次の2つの技法のどちらかを必ず入れる。 **A乱れ読み** **B追いかけ**

右の2つの技法の部分にはその解釈と技法の関連の説明をしてもらひ。（シナリオ評価のポイント！）

【詳細】

「あめ」（規定演技）とオリジナルシナリオ（自由演技）の群読を発表する。

『評価のポイント』

- ・声の調和、大きさ、グループの間合い。
- ・技法を正確に演技できているか。（規定演技）
- ・シナリオと解釈がマッチしているか。（自由演技）